

日本最古級の

横櫛が出土

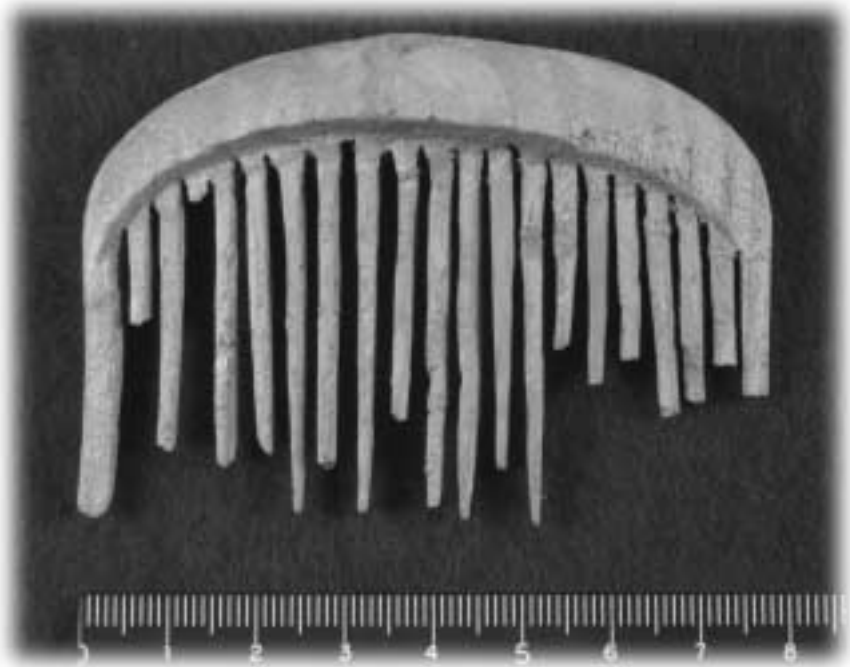
県営ほ場整備事業に伴い発掘調査を行った桜井町の彼岸田遺跡で、日本最古級の横櫛が出土しました。

平成11年度の調査で出土した木製品を保存処理したうちの1点で、縦5.5cm、横7.7cm、歯の数は19本です。櫛の形態は歯と歯の間隔が広いことなど、古い形態の特徴を備えています。鑑定の結果、現在のところ日本最古(古墳時代前期末(中期)の横櫛とされる大阪府八尾市小阪合遺跡出土のものと同様、ほぼ同時期の国内最古のものであることが確認されました。横櫛は渡来系の技術(朝鮮半島を経由して渡ってきた技術)の系譜上にあるもので、材質はイスノキと考えられています。

この横櫛は市埋蔵文化財センターで一般公開しています。

問い合わせ▼市埋蔵文化財センター

(☎77)4490)



彼岸田遺跡

彼岸田遺跡は、弥生時代前期から戦国時代まで続く集落遺跡である古井遺跡群の一角を占めています。



古井遺跡群では、今までの調査で膨大な量の土器や木製品が出土しています。特に弥生時代後期には他地域の土器が多量に出土(①)し、地域間交流の拠点とされており、ほかにも日本最古級の墨書のある土器が出土(②)するなど、質・量ともに西三河では傑出した集落遺跡として評価されています。また、桜井古墳群造営の母胎となる集落としても注目されています。特に二子古墳(③)は、古墳時代初期の東海地方の古墳の特徴である前方後方墳であり、69mの墳丘規模は、この時期の前方後方墳としては最大級のものであります。

- ① 畿内系土器は東日本最多、北陸系土器は東日本第2位の出土数を数える。
- ② 野辺遺跡で出土した墨書のある弥生土器(左写真)
- ③ 二子古墳(下の写真)

